

往来物における絵図資料の活用について

現代けんこう出版 小 泉 吉 永

1. 絵図と往来物

[絵図に対する教育的関心の高まり]

・寛文6年(1666)『訓蒙図彙』(中村 斎)

日本初の絵入り百科事典。自らの児女のために編んだという。中国・明の『三才図会』等の影響が色濃いが、日本の風土に即して天地万物を図解。初学には事物の名称とその形状を知ることが大切で、そのためには図解が効果的であるとした。

・宝永7年(1710)『和俗童子訓』(貝原益軒)

「世間通用の文字」を知るテキストとして『訓蒙図彙』等を奨励。

・寛延2年(1749)頃『文会雑記』(湯浅常山)

子どもの教育には『訓蒙図彙』のように、絵図と語彙の並んだものを楽しく学ばせることが大切とする。絵入り本や軍書などによって、強制ではなく自然と読書好きにさせよと説く。

・天明3年(1783)『授業編』(江村北海)

子どもの手みやげやお年玉に『訓蒙図彙』『絵入庭訓』『絵入節用集』等を与えることを推奨。絵本を与えると、子どもは必ず「絵解き」をせがむため、子どもの興味に応じて、絵図を一つ一つ説明していけば良い。このように、幼時より書物に親しませることが、書を好む心を養うことにつながると説く。

[絵入りの往来物／絵入り本が登場するまでの年数]

- ・女訓抄 [21年] 寛永14年(1637)刊 → 万治元年(1658)『<絵入>女訓抄』
- ・女鏡(女鏡秘伝書) [9年] 慶安3年(1650)刊 → 万治2年(1659)『<絵入>女かきみ』
- ・御成敗式目 [148年] 大永4年(1524)刊 → 寛文12年(1672)『<頭書絵入>御成敗式目』
- ・庭訓往来 [77年] 慶長11年(1606)刊 → 天和3年(1683)『<絵入>庭訓往来』
- ・実語教・童子教 [65年] 寛永初年刊 → 元禄2年(1689)『<首書絵抄>実語教童子教』
- ・小野篁歌字尽 [27年] 寛文2年(1662)刊 → 元禄2年(1689)『小野篁歌字尽(絵抄本)』
- ・江戸往来 [20年] 寛文9年(1669)刊 → 元禄2年(1689)『<首書絵入>江戸往来』
- ・古状揃 [46年] 万治元年(1658)刊 → 元禄17年(1704)刊『古状揃絵鈔』
- ・新板用文章 [31年] 明暦3年(1657)刊 → 元禄頃(1688～)『新板用文章(頭書絵抄本)』

[元禄期の往来物には絵入りも多い]

- ・元禄5年(1692)以前刊『万用字尽教鑑』
- ・元禄5年(1692)刊『用文章綱目』『女重宝記』『世話用文章』
- ・元禄6年(1693)刊『<首書絵抄>女筆四季文章』『<絵入>年中往来』
- ・元禄7年(1694)刊『女教訓文章』
- ・元禄8年(1695)刊『女実語教・女童子教』『七宝庭訓往来(※合本科往来)』
- ・元禄10年(1697)刊『女万用集』『女雛形用文章』
- ・元禄11年(1698)刊『童子往来綱目』『俗語教・道戯興』『女用文章大成(女用文章綱目)』『書翰用文章福寿海』
- ・元禄12年(1699)刊『当流女筆大全(増益女教文章)』
- ・元禄13年(1700)刊『童子往来大成』『女世話用文章』『新女今川(女今川)』
- ・元禄17年(1704)刊『女文常盤の松』

[往来物に見る絵図掲載の理由]

(1) 児女(女・子ども)の興味と理解

- 「庭訓往来鈔有といへとも、童幼の人、よみて其義理を解す力なし。故に、今悉く図に出し、幼稚の子にも絵に依て義理を令知者也」 *貞享5年刊『庭訓往来図讃』
- 「画図を雑へて童蒙之一助と爲る而已(原漢文)」 *中村甚丞編・元禄5年刊『用文章綱目』
- 「此書、上層の小書に読方を贅せしは、童蒙の遺忘に備んとの設なり。且、其傍にさし絵せしは、同じく幼童の目を悦ばせんが爲なり」 *藤村秀賀作・文久2年刊『謹身往来精注鈔』
- 「右絵抄之儀者、御幼稚之御方々御手近ニ差おかれ候は、御たい屈なく、自然と御熟読に相成候ため…」 *慶応2年刊『千字文絵抄』
- 「女今川教訓状、全一冊。世に行はる、『今川状』を大字・かな附にし、絵をまして女子の読ならひ給ふ料に備ふ…」 *弘化3年再刊『今川童子訓』広告
- 「唐土の絵図にてはさとり難ければ、御国の図をもて女子童蒙のわかりよく面白く章毎に画をまじへぬれば、進物・土産もの等は此本に勝物なし」 *文政11年刊『曹大家女誡図会』

(2) 幅広い読者の興味と理解

- 「是を和漢古今の世事に模し和して画図にあらはす時は、上は雲上より初て土農工商のいとなみ、下は深山幽谷の賤の男・賤の女の業に至るまで、文意に漏ることなかるべし」 *長谷川光信画・寛延元年刊『大学倭絵抄』
- 「男女にかたよらず、眼に止て退屈せざらんことを願ひまにまに絵図を入られぬ」 *木村繁雄作・文政9年刊『世話千字文絵抄』

(3) 直感的な理解

- 「画する所は、たゞちに其善悪を模しらしめんかため也」 *居初津奈作・元禄7年刊『女教訓文章』
- 「絵合百人菊花香 …此本は百人一首の歌の心を絵に顕したり。○世間にある百人首は百処もおなじやうなる公卿の絵なり。此本は天智天皇の御歌のところは、野山も秋のけしきにて田をかりとる絵をしるし、…其外いづれも歌の心を絵に顕し候ゆへ、一首一首絵も違ひ、見るに面白くしぜんと歌の心相わかり申候」 *江戸後期刊『筆道稽古早学問』広告

(4) 言葉で説明しきれない場合の補足

- 「文字の及ばざる所は画を以て其形をうつし、委敷その事実を後世に伝ふ…」 *蔀関月編・寛政12年刊『新增用文筆道大全』
- 「『をしへ庭訓』と同じ模様に工夫をなし、絵図にて講釈せし書三品あり。教庭訓・教商売往来・教実語教」 *文化2年刊『教実語教』
- 「…猶注解の及ばざる所は絵にあらはし、児童平生のもてあそびとして実に徳に入るの書なり」 *天保9年刊『幼学以呂波歌教鑑』(「絵本実語教・絵本童子教」の広告)

(5) 絵手本としての活用

- 「絵ならふ人のはじめはいふも更なり、いたり深きあたりにも画き形彫手鑑ともなりなんかし」 *勧善堂作・天保14年刊『幼心学図絵』
- 「問ずして方角を知り、居ながら名所を知る、実に独案内の名所杖、且、書画共に手本を兼たる重宝の書也」 *又玄齋南可作・慶応2年刊『江戸方角名所杖』
- 「絵本庭訓往来 全一冊。此書は北齋先生本文に合して所在人物・鳥獸、其外の品物に至る迄、悉く模写して解するに易く、書画ともに学べき為に絶筆ふるわれし画手本なり」 *江戸後期刊『実語教・童子教』広告

■ホームページのご案内

往来物倶楽部 http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/index0urai.htm

○家蔵和装本(往来物・石門心学書など約4100冊)の全データや、貴重本の紹介、その他往来物情報。

○拙著『往来物解題辞典』『女子用往来刊本総目録』『女筆手本解題』の全データや各種論文。

※『解題辞典』が全文検索・絞込検索が可能な「往来物データベース」は、随時更新(登録制)。

○三次市立図書館(稀覯往来物の写真約200点)や、往来物周辺の資料を集めた「往来物ミュージアム」など。

2. 絵図の変化と模倣

[変化する絵図1：当世風の重視]

- 「(元禄板『女重宝記』は)今はた流行におくるゝ事多し。只過し世のさまを今見るのおもひあり…」 *高井蘭山編・弘化4年刊『〈絵入日用〉女重宝記』序文 → **図1** 婚礼図の変化
- 「こたびあらたにゑりかへぬるついでに、画図のおもむきも時代のたがひたれば、これらをことごとく今様の風俗に書あらため、かつ、文中もところどころ二たび、三たび校合をくはへて、よく誤りを正したれば…」 *天保4年刊『女小学教草』
→ **図2** 宝暦板と天保板で変わる「女中品定」図（風俗中心から職業中心に）
- 「世に行はれる女訓の書あまた有が中より、是を撰み、かれをすぐり、誤れるを改め、なをたよりあらんことを集め、当世の絵をまじへ、『女訓手習鑑』と題しぬ…」 *内野善邦編・慶応2年刊『女訓手習鏡』
- 「此百首の歌教訓印行星霜久しき書と見えて最明寺殿の自詠といひ伝ふ。…雛の西川氏、これに当流の絵抄を裁（載）してあらたに『清水の池』と題せり」 *享保19年刊『清水の池』

- ・嘉永3年刊『五常名義絵抄』の明治期改題本では、陳腐化を避けるための改竄が行われた。→ **図3** 和装から洋装へ

[変化する絵図2：写実性の重視]

- ・概ね江戸中期末より江戸末期に近づくにつれて、遠近法や鳥瞰図、正確な縮尺による写実的な絵図が増える。
→ **図4** 金閣寺の鳳凰

[模倣される絵図] 模倣とパターン化

- ・往来間の影響や模倣は数多い。
 - 女子用往来から女子用往来へ **図5** 仙台板には模倣が多い
 - 男子用往来から女子用往来へ **図6**
 - 女子用往来から男子用往来へ **図7**
 - 男子用往来から男子用往来へ **図8** **図9**
- ・模倣の繰り返しの過程で、特定の絵図を構成する要素や構図などが固定化してくる。 → **図10** 二十四孝
- ・同一往来でも刊年によって挿絵が異なる場合もある。 → **図11** 『女大学宝箱』諸板の絵図の変化と他への影響

■慶応元年刊『実語教童子教具注鈔』（席書の図）



3. 絵図資料活用のヒント

[1: デジタル化とデータベース化] 集まれば絵図の意味も見えてくる。

- ・分類された絵図の比較による発見、また、様々な疑問や問題意識の芽生え。
- ・膨大な絵図のデジタル化やデータベース化の必要性。
- ・絵図に付随する説明文のデータベース化も大切。
- ・往来物や絵本に限らず、浮世絵や筆写本までを含む種々の絵図の収集が必要。
- ・口絵など多色刷りの場合には、カラー画像でのデジタル化が望ましい。
- ・描き方の精密度は絵図の大きさにも影響されるため、絵図の実寸を並記することも大切。

[2: 絵図分類と利便性] 一葉の絵図をどう捉えて索引化するか。

- ・絵図をどのような観点からデータベース化するかが重要。
- ・絵図に含まれる情報をなるべく多く索引化。ただし、データベースの利便性からシンプルな分類が求められる。
- ・より普遍的な絵図分類・索引化の方法論の確立。

→ 次の資料（大空社刊）では、主として絵図の登場頻度を基本に分類。

江戸時代 女性生活絵図大事典 絵図約5000点を収集。「教訓・行儀作法／家庭・社会／学問・家事・諸芸／四季・動植物・名所／化粧・養生・占い／通過儀礼・年中行事／和歌・古典文学／伝記・信仰ほか」の8分類。

絵図集成 近世子どもの世界 絵図約6300点を収集。「子ども・手習い／諸礼・芸能／家庭・生活／職業／社会・風俗／名所・旅行／生物・中国風俗／人物略伝」の8分類。

【D-ROM版日本風俗絵図】 絵図約2600点を収集。「1. 武士／2. 農民・漁民／3. 商人・職人／4. 神官・僧侶・尼／5. 芸人・盲人／6. 遊女・若衆／7. 幼児・子ども／8. 故事・略伝／9. 外国人・神仙類／10. 飲食／11. 女性の日常／12. 家事／13. 読書・手紙／14. 芸能・余暇／15. 家具・調度類／16. 旅行・往来・橋／17. 乗物／18. 参詣・寺社／19. 春／20. 夏／21. 秋／22. 冬／23. 風景・名所・天候／24. 植物／25. 動物・虫／26. 公家／27. 結婚・出産・子育て」の27分類による複合検索が可能。

[3: 説明の有無] 説明のない絵図から当時の常識を推測。

- ・説明が無ければ現代人にはよく分からない絵図でも、当時の一般庶民には絵図の意味が概ね理解できたはずである。絵図の説明が無いことも、庶民の常識・意識を判断する目安に。 → 

[4: 絵図の付加情報] 絵図には時には意外な情報も。

- ・絵図の中に隠された付加情報（作者名・板元名・刊行年代の手がかり等）は少なくない。時には、刊記よりも正確な年代推定の証拠になる。 → 
- ・付録記事（前付・頭書等）も資料として馬鹿にできない。 → 
- ・さりげない書籍広告は日常茶飯 → 『実語教童子教具注鈔』（本レジュメ3頁）。

[5: 絵図の成立年代] 刊記の限界を補う絵図の可能性。

- ・板木の寄せ集めが多い「百人一首」類や「合本」類は、付録記事などの使い廻しが多く、年代推定に注意が必要。
- ・絵図の絵柄のほか、絵図中に初刊年代のヒントもある。 → 

[6: 読者と絵図] 特定の読者を想定した絵図。

- ・読者対象によって描かれる主体も変わる。 → 

[7: 非現実的な絵図] 時空を超越した絵図。

- ・実際にはあり得ないが、一枚に種々の様子を盛り込んだ説明的な絵図。 → 
- ・時空の異なる複数の場面を一葉の絵図で表現するような場合もある。 → 

[8: 絵文字・文字絵・判じ絵] 遊戯性や娯楽性を兼ねた絵図。

- ・絵と文字・言葉を組み合わせた遊びの数々。 →  判じ絵 / 